

平成31（2019）年度  
事業計画書



平成31(2019)年3月28日  
学校法人 四條畷学園

## 目 次

平成31年度事業計画の策定にあたって	2
長期ビジョン・中期計画の全体イメージ	3
長期ビジョン・学園宣言の基本的考え方	4
中期計画の骨子	6
事業計画	
法人本部	7
四條畷学園大学	11
四條畷学園短期大学	17
四條畷学園高等学校	20
四條畷学園中学校	24
四條畷学園小学校	28
四條畷学園大学附属幼稚園	34
四條畷学園保育園	38
主な新規事業計画	41

## 平成 31 年度事業計画書の策定にあたって

今年は平成最後の年であるとともに、5 月以降は新しい元号で新たな時代を迎える節目の年になります。

学園でも、平成 31 年度から第二次中期計画(以下新中計という)がスタートします。第一次中計は 3 年前の 90 周年を機に 100 周年を見据えた「持続発展可能な経営基盤の確立」を目指した長期ビジョン「SG 90-100 Plan」のアクションプランという位置づけで策定しました。90 周年記念事業で第一次中計の重要課題として取り組んできた看護学部の開設は準備期間を含め長期かつ大きな投資になりましたが、完成年度を迎え学園全体の経営基盤の強化につながってきました。

新中計も長期ビジョンを踏まえたものであり、基本的な方向性が大きく変わることはありません。一方で、18 歳人口が減少に転じる 2018 年問題の現実化により、募集環境は更に厳しさを増しています。このような問題意識、危機感の共有とともに教職員の意見の反映という趣旨で教職員アンケートを実施しました。特徴的だったのは、全学的な広報体制の強化に対する要望や意見が多かったことです。「教職員一人ひとりが広報マンであることを自覚することが最も重要だと思います」という全員広報についての意見もありました。足もとの募集環境の厳しさに対する切実な危機感の表れであると受け止め、新中計でも「管理体制・財務基盤の強化」とともに、「募集力の維持・強化」を重要テーマとしました。

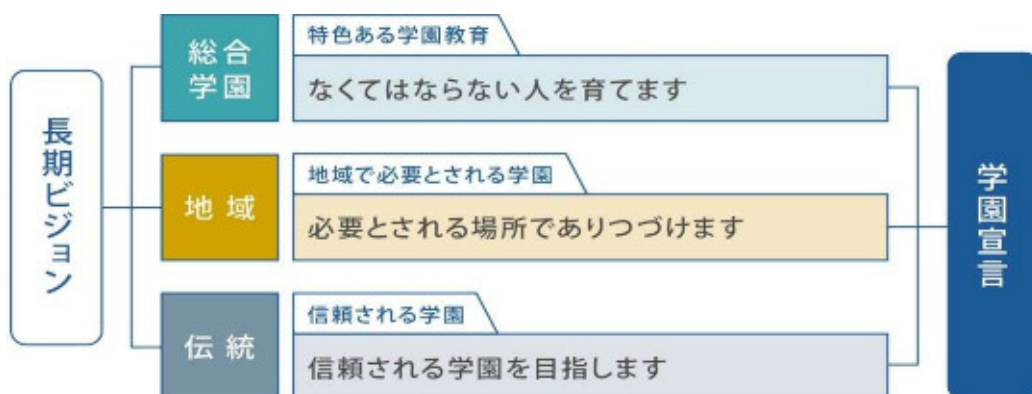
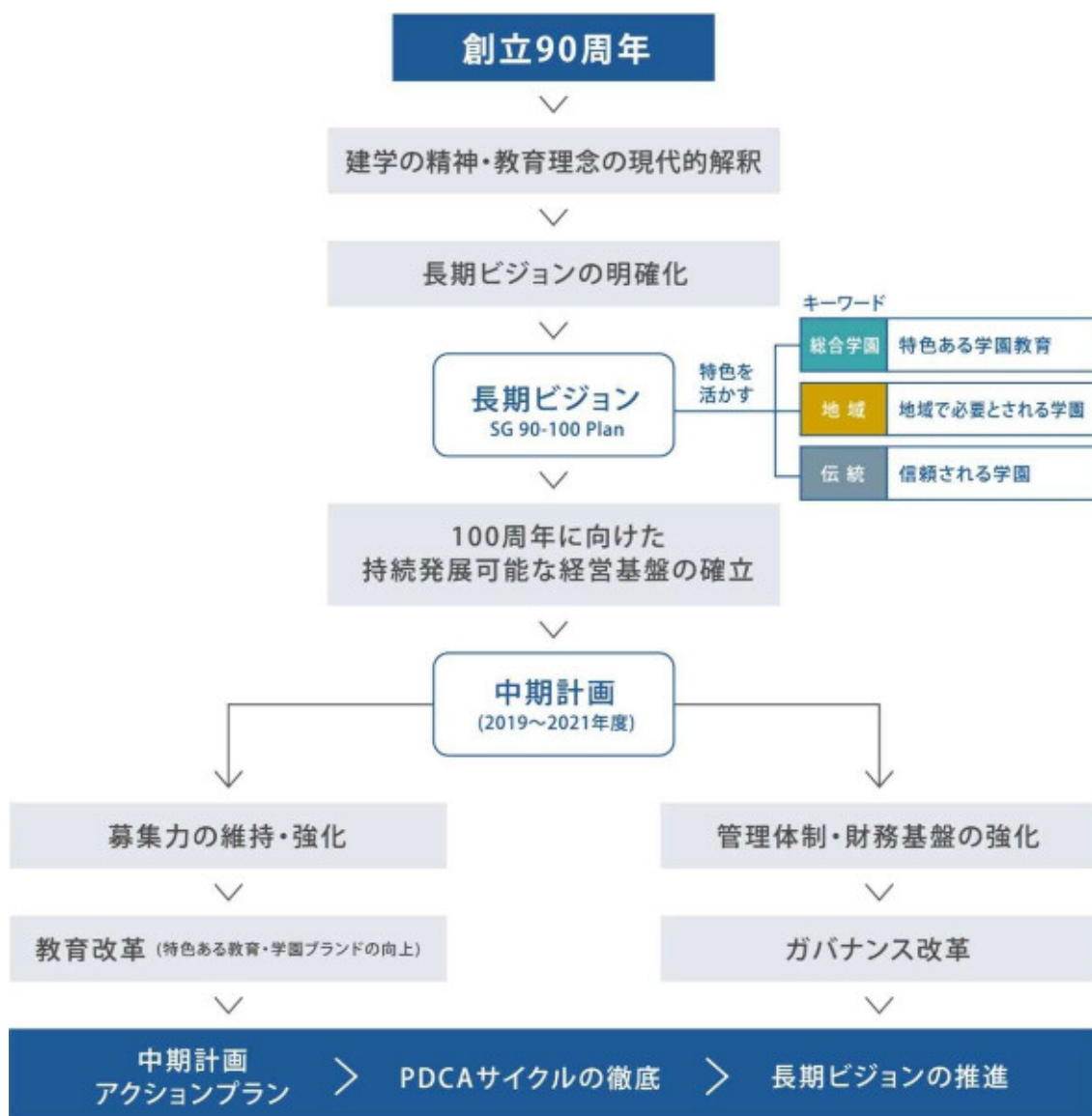
他学の事例をみても、厳しい募集環境下で健闘しているところは、広報を広報部署や広報担当者の問題としてだけでなく、教育現場を含めた組織全体の問題として捉えています。今年度以降、教育現場と広報部署が従来以上に円滑に連携できるサポート体制や内外コミュニケーション体制の整備・充実に注力したいと考えています。一方、募集力・発信力のあるコンテンツの”原石”は学園教育の特色である基礎教育・体験型教育・人間教育という現場の教育実践の中にあることは言うまでもありません。すなわち、学習指導要領の改訂等、今後の大きな変化に対し、今一度、学園教育の原点に立ち返った教育改革を進めることで最大限の「広報×教育改革」のシナジー効果を発揮することが重要になります。

大正最後の年に創立され、激動の昭和、平成と発展してきた学園も新しい元号とともに新しいステージを迎えることとなります。昨年作成した広報冊子「Living in this Town」に寄せられた学園ファンからのメッセージは学園が「なくてはならない教育機関」である証しです。このことに誇りと自信を持ち、今後の更なる期待にこたえていくために、教育実践のレベルアップを図り、学園ブランドの向上につなげていきたいと考えます。今年度の事業計画では、これらの課題を中心に、これまで取り組んできた長期ビジョン・中期計画を通じた PDCA サイクルの仕組みづくりを踏まえ、このサイクルを自律的に回し、実効性を高めていきたいと考えています。

新中計の初年度として、100 周年に向け、学園関係者がそれぞれの立場で伝統を受け継ぎ、長期ビジョンや新中計の方向性と危機感を共有し、新しい時代にふさわしい「持続発展する学園」を創りあげるための一歩を踏み出しましょう。

学校法人四條畷学園  
理事長 小谷 明

## 長期ビジョン・中期計画の全体イメージ

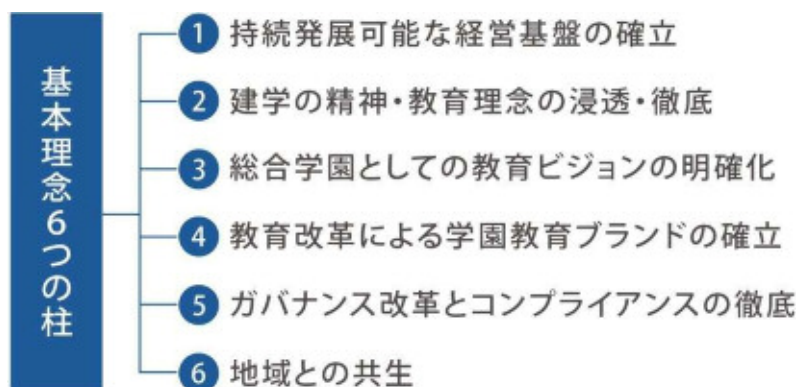


学校法人 **四條畷学園**

# 長期ビジョン・学園宣言の基本的考え方

## 1. 基本理念

今回の長期ビジョンでは 100 周年をいいかたちで迎えられるよう六つの基本理念を設定して検討を進めました。



- ① 持続発展可能な経営基盤の確立  
100 周年に向けた「持続発展可能な経営基盤の確立」のために、中期計画のテーマである「募集力の維持・強化」と「管理体制・財務基盤の強化」に取り組みます。
- ② 建学の精神・教育理念の浸透・徹底  
90 周年を機に、建学の精神・教育理念の現代的解釈に基づき、総合学園としての「学園教育の特色」「育てたい人材像」「学園教育ブランド」の関係性を整理し、浸透・徹底を図ります。
- ③ 総合学園としての教育ビジョンの明確化  
「総合学園というが、学園全体の統一イメージがわからない」といった声に対し、各校園の伝統的な「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」を学園全体として捉え直し、進化させ、新たな教育ニーズにも応える学園版「アクティブラーニング」に取り組み、教育ビジョンの明確化を図ります。
- ④ 教育改革による学園教育ブランドの確立  
現場の教育実践が学園教育ブランドとして発信力を持つよう、学園らしい「実践躬行」を通じた教育現場主導の教育改革を重視します。
- ⑤ ガバナンス改革とコンプライアンスの徹底  
全学的な改革を推進していくためには、理事長・校園長をはじめとする各部署の責任者のリーダーシップが発揮され、それによる各組織体のガバナンスが確立されていること、また、全関係者にコンプライアンス(法令順守)意識が徹底されていることが必要不可欠です。合わせて、ディスクロージャー時代を迎え、財務情報等様々な情報を公開することにより、運営面での透明性を確保していきます。
- ⑥ 地域との共生  
地域密着型の総合学園として、募集面だけではなく、保健医療系大学としての特色を活かし、地域との共生のための連携施策を積極的に進めていきます。

## 2. 長期ビジョンの基本的考え方

### **【特色ある学園教育】**

- 学園には創立以来、徳・知・体の「三育教育」の伝統があり、幼稚園から大学まで各校園ごとに特色ある「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」が行われてきました。
- 近年、社会から求められている「実習や体験活動などを伴う主体的・対話的で深い学び」すなわちアクティブラーニングと「三育教育」「実践躬行」を重視してきた学園教育とは考え方や方法が極めて近い関係にあります。
- 90周年を機に、建学の精神・教育理念の現代的解釈を通じ、総合学園としての「教育の特色」「育てたい人材像」「学園教育ブランド」を明確にし、学園の伝統的な「三育教育」や「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」の特色を進化させ、新しい時代にふさわしく学園らしい「アクティブラーニング」モデルに挑戦していきます。

### **【地域で必要とされる学園】**

- 「学生生徒・保護者・地域の人々から『必要とされる』場所であり続ける」ためには地域との共生が重要になります。地域で必要とされているか否かの中長期的な評価は募集状況にも反映されます。現状、近隣地域の在籍者依存度は高水準ですが、将来の募集環境の厳しさを念頭におけば、従来以上に、学園ブランドの向上とともに様々な連携施策を通じて地域での存在感を高める必要があります。
- リハビリテーション学部看護学部を加えた保健医療系大学になった今、地域との共生のための知(地)の拠点整備への取り組み等、従来以上に、地域が抱える課題解決のための連携・協働への期待が高まっています。

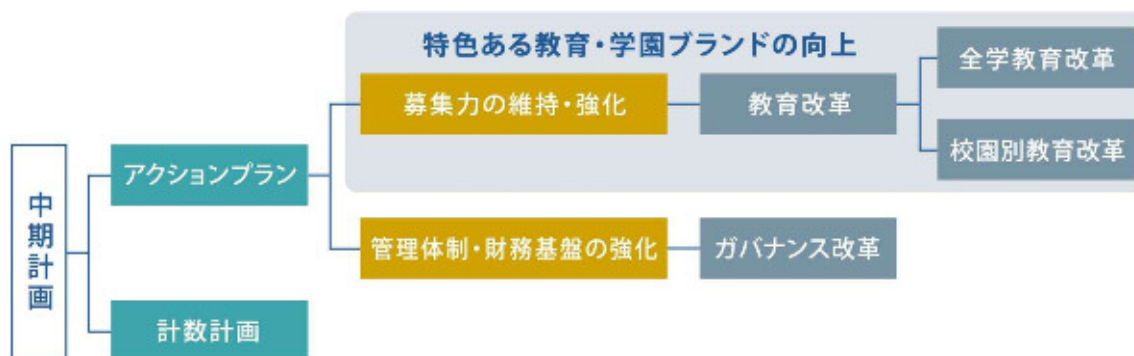
### **【信頼される学園】**

- 90年の教育と経営の伝統が地域や社会から学園に対する信頼の基盤になっています。100周年に向け、引き続き、信頼を重ね伝統を守っていくために、管理面や財務面での運営体制の強化を中心としたガバナンス改革を進めていきます。
- 近年の教育行政によるガバナンス強化の要請の背景には、厳しい環境のもとでは、学校経営も一般企業と変わることなく経営体のガバナンスがしっかりとしていないと存続危機の事態を招きかねないという共通認識があります。
- SNSの時代には、管理体制の問題はもちろん、学園関係者の不用意な言動が風評リスクを通じて信頼喪失そして募集力低下に直結することになります。一人ひとりのリスクに対する意識が従来以上に問われる時代になっているという自覚が必要です。
- 私学事業団方式の評価によれば、財務面では収益性や経費構造上の課題が明確であり、コスト意識とともに予算管理を中心としたPDCA管理の徹底が求められています。

## 中期計画の骨子

### 1. 基本的考え方

中期計画の骨子は以下のとおりですが、期間は2019年度～2021年度の3年間になります。2018年度に看護学部の完成年度を迎えたことから、計数計画としては学園の事業計画が基本になります。



### 2. 中期計画アクションプランの共通テーマ

長期ビジョンの基本理念である100周年に向けた「持続発展可能な経営基盤の確立」のためには「募集力の維持・強化」と「管理体制・財務基盤の強化」という攻めと守りを同時に高いレベルで実現することが求められます。これらの課題は校園間、教学・事務間の協働・連携等全学横断的な対応が求められることから中期計画アクションプランの共通テーマとしました。

#### 共通テーマ

- ① 募集力の維持・強化
- ② 管理体制・財務基盤の強化

### 3. 具体的な展開方法

中期計画アクションプランに基づき、全学、校園、本部・各事務室それぞれあるいは協働・連携して展開していきます。教育改革については「特色ある教育・学園ブランドの向上」に向けた教育実践の成果を今後の「持続発展」に必要な「募集力の維持・強化」につなげるため、特に「広報×教育改革」のシナジー効果の視点を重視していきます。ガバナンス改革についてはアクションプランの課題を中心に見直しを行い、引き続き体制整備を図っていきます。

#### 展開方法

- ① 教育改革(全学・校園別)
- ② ガバナンス改革

No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	<p>(1)SG 90-100 Plan(長期ビジョン・中計)の推進</p> <p>①アクションプラン平成31年度進捗状況を確認します。(PDCAの実施)</p> <p>②内外環境要因を分析し、中計(計数計画)の策定・精緻化を図ります。</p> <p>(2)短期大学認証評価受審の準備</p> <p>短期大学認証評価における本部セクションの対応整備を進めます。</p>
2	教育改革サポート	<p>(1)教育内容・水準、研究環境・基盤の充実、整備</p> <p>①幼稚園の満三歳児受入れに関する企画および受入れに向けたサポートを行います。</p> <p>②幼稚園の認定こども園移行、保育園の拡大に関する多面的検討と必要な準備を行います。</p> <p>(2)中期計画テーマの推進～建学の精神・教育理念の教育実践への浸透～</p> <p>①4月からスタートする高校の新コースや大学の「実践教育センター」等の各校園の動きを積極的にサポートします。</p> <p>②「感謝の力向上プログラム」の展開として、モチベーションを高め、主体性・能動性を引き出す”場”として、学園版「ラーニングコモンズ」等の図書館機能の新しい活用方法を検討します。</p>
3	財務	<p>(1)学生生徒等 納付金の増収</p> <p>①戦略的授業料体系の検討</p> <p>校園別に学納金引上げの余地を検討します。</p> <p>②学生確保のための奨学金の戦略的活用</p> <p>ア. 各校園の入学時奨学金制度の見直しを検討します。</p> <p>イ. 高等教育無償化にかかる機関要件(財務面)を整備します。</p> <p>(2)外部資金導入等他の収入の恒常化</p> <p>①競争的補助金の積極的確保</p> <p>対外比較、時系列比較等により、増額目標を明確化します。</p> <p>②寄付金の戦略的な確保、寄附金受け入れ態勢の整備、強化</p> <p>寄付金募集方法の多角化を検討します。</p> <p>③多様な事業収入の検討</p> <p>ア. 消費税引上げへの対応を含む附随事業の料金体系見直しを検討します。</p> <p>イ. 遊休不動産に対する事業者提案の積極的募集、処分を検討します。</p> <p>(3)人件費比率の適正化</p> <p>①校園別業績連動型期末手当支給制度を検討・設計します。</p> <p>②教員数適正化に向けた校園別検討会を開催します。</p>



No	施策種類	事業計画
		<p>(4)経営の合理化進展、効率的な財政運営、健全な財務体質の維持</p> <p>①財務体質の強化、予算システムの整備</p> <p>ア. 損益意識の醸成に向けた教職員対象の財務情報説明会を実施します。</p> <p>イ. 財務内容に関する他校比較を実践します。</p> <p>②コスト意識の浸透、経費管理の徹底・無駄の排除、経営の合理化</p> <p>ア. 校園別損益管理を徹底します。</p> <p>イ. 校園別、時系列分析によりコスト意識を醸成します。</p> <p>ウ. 附随事業の代金回収にファクタリングを検討します。</p> <p>③経費節減</p> <p>ア. 前年実績との比較徹底による物件費を抑制します。</p> <p>イ. 投資案件を厳選します。</p>
4	教職員の育成	<p>(1)「教職協働」の考え方定着化</p> <p>人事労務や法務、営繕関連の課題解決において、多様な職階の教職員による委員会を構成、課題解決のプロセスを通じて連携協働を進めます。</p> <p>(2)教員の組織的なFD活動実施の検討(授業公開、授業アンケート結果の分析応用、アクティブラーニング、PBL授業の導入等)</p> <p>①公開授業をFD委員会教員から始め、振り返りミーティングを行います。</p> <p>②授業アンケート結果の分析し、積極的に活用します。</p> <p>③多校園でアクティブラーニングを採用します。</p> <p>(3)事務職員に対するSD活動(事務処理能力・企画立案能力向上)</p> <p>①事務連絡会におけるSD研修会を継続します。</p> <p>②若手事務職員の外部研修の参加を加速します。</p>
5	人事制度全般の見直し・整備	<p>(1)教職員の定員管理</p> <p>①各校園における次期運営体制案について本部人事と共有を進めます。</p> <p>②各校園における女性や若手の管理職登用を進めます。</p> <p>(2)教職員の能力開発の仕組みの検討</p> <p>①事務職員の多能化推進に向けた異動を計画・実施します。</p> <p>②能力ある一部嘱託職員を本務職員に登用します。</p> <p>(3)給与体系の全般的な見直し</p> <p>①校園別業績連動型期末手当支給制度の検討し、設計します。 (人件費率適正化策に同じ)</p> <p>②教員評価制度導入の是非に関する教員意向を調査します。</p>

No	施策種類	事業計画
6	組織・権限	<p>(1)コンプライアンス・ガバナンスの強化</p> <p>①理事会・評議員会機能の強化 常任理事と校園執行部門の連携を強化し、責任明確化のための体制を見直します。</p> <p>②教学ガバナンスの強化 ア. 短期大学のIR担当者を養成します。 イ. 中高の連携、コースの見直しに向けたサポートを強化します。</p>
		<p>(2)内部統制、リスク管理機能の強化</p> <p>①本部機能の強化 ア. 大学奨学金事務の集中処理を検討します。 イ. 北条学舎への総合券売機導入を検討します。 ウ. 給与課への休暇管理システム導入を検討します。 エ. 周辺会計対象先への管理を厳正化します。</p> <p>②監事機能・内部監査機能の強化 事務局役職者間の役割分担を見直し、監査担当の機能を強化します。</p>
		<p>(3)意思決定の迅速化</p> <p>①意思決定の迅速化 第二次中計では、これまでの権限移譲の実効性があがっているか検証します。</p> <p>②権限の明確化 職務分掌・決裁権限規程の体系見直しは完了。課題があれば、今後も随時整備します。</p> <p>③大学・短大事務組織の一元化 図書館やICP、教室・食堂利用、奨学金対応、就職支援など、設備や人事の更新を機に学園町と北条の双方で一本化を検討します。</p> <p>④業務の抜本的見直し ア. 給与、諸手当計算、時間管理・有給休暇管理等の外部委託を試算します。 イ. 図書館業務の更なる外部委託化を検討します。 ウ. 学童・預かり、課外教室等の外部委託化を検討します。</p>
7	広報	<p>(1)戦略的広報体制の確立・展開</p> <p>①本学のブランド構築・向上、認知度向上等 総合学園の強みを活かす企画広報を強化します。</p> <p>②学内情報の集約化体制整備 企画広報担当者と大学募集広報室、各校園広報担当者との連携体制を構築します。</p> <p>③学内情報の学外への効果的な発信 チャンネルごとの予算措置、優先順位を検討します。</p>

No	施策種類	事業計画
		<p>④全学広報委員会の設置 全学広報委員会を設置し運営をサポートします。</p> <p>(2)情報公開</p> <p>①大学第三者評価基準、高等教育無償化機関要件を上回る開示項目を充実させます。</p> <p>②図表による開示項目を増強します。</p> <p>③校園別財務情報の開示を検討します。</p>
8	その他	<p>(1)外部評価機関の活用 第三者評価や自己点検評価について本部執筆フォームを統一、ルーティン化し、作業の効率化を図ります。</p> <p>(2)施設の適切な管理</p> <p>①被災施設を完全に復旧します。</p> <p>②高校職員室の一本化を検討します。</p> <p>(3)危機管理と防災対策</p> <p>①被災施設の完全復旧、ブロック塀改修工事を完了します。</p> <p>②高校体育館の耐震工事の準備を行います。</p> <p>(4)キャンパスの総合整備</p> <p>①都市計画事案は大東市と売買価格・移転補償の交渉を継続します。学校法人の投資と経費を最小限に抑えた着地を目指します。</p> <p>②高校体育館の耐震工事、空調工事を具体化します。</p> <p>③食堂拡充計画について具体的に検討を開始します。</p> <p>(5)社会貢献・文化活動の推進 各校園の企画・活動を資金や設備、制度面でアシストします。</p> <p>(6)同窓会等との連携強化 団体活動(PDK等)への人的支援や施設貸与基準など、学校法人としての基本方針を整理します。</p>

## 大学

No	施策種類		事業計画
1	重点取組事項	共	(1)建学の精神、教育理念の浸透 各学年のオリエンテーションやガイダンスにおいて、周知徹底します。
		共	(2) 入学定員・収容定員の確保 ①リハビリテーション学部は80名(PT:40名、OT:40名)の確保に努めます。 ②入学者の退学率を最終的に10%以下に抑制する。その第1段階として20%未満を達成します。
		共	(3)重要計画への取組 「大学のブランド構築プロジェクト」における課題から抽出した中期経営計画でとりくむべき重要計画(新たな価値の創造、広報拡充、教育環境の高度化、地域貢献、人材育成)に真摯に取り組み、計画通りに達成します。
		大	(4)実践教育センターの設立 「専門性に基づく実践力を備えたチーム医療の担い手」と「地域の人々と共に健康活動を実践する地域医療の担い手」を育成する目的で設立する「実践教育センター」の運営について、まずは看護学の分野でスタートし、軌道に乗せます。
2	入試制度の見直し	共	(1)文科省の入試制度改革への対応 ①2021年度入試に備え、公募推薦入試、一般入試、共通テスト利用入試等の科目、実施日、評価方法等の抜本的改革を検討します。 ②学力の3要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性)を評価できる本学独自の入試方法(面接・小論文他)を検討します。
		共	(2)2020年度入試における改善点の検討 ①指定校の選定や評価方法を再検討します。 ②遠方受験者の機会拡大および支援方法を検討します。 ③高校及び両学部の責任者を交えた3者で内部入試のあり方を検討します。
3	教育内容・水準の充実	共	(1)入学前教育の充実 ①推薦入試合格者の入学前教育(東進ハイスクール)受講必須化の評価と改善点を検討します。 ②(リハ)入学前教育の効果を高めるため、入学前教育開始前に2回のオリエンテーションを実施します。 ③(看護)入学前教育開始後、学習の動機付けと新入生の交流等を目的に「集いの会」を開催します。
		共	(2)初年次教育の充実 ①退職教員(学園高校含む)、先輩ボランティア等による時間外補習のための理数基礎力支援室の設立を検討します。 ②初年次教育で、国語力・作文力(思考力・判断力・表現力等の能力の基礎)の指導及びグループワークによる主体性・多様性・協働性の強化を図ります。

No	施策種類		事業計画
3	教育内容・水準の充実	共	(3)相応の学力差を前提とした学生満足度が高い教育 ①初年度教育等の基礎教育に能力別クラスを導入し、学生全体の学力底上げを図ります。 ②成績優秀者にはチャレンジャブルな教育課題(ゼミ形式)を設定します。 ③成績不振者には丁寧な補講授業を行い、少なくとも国試合格ラインまで引き上げます。 ④1年次:年度末に特別補講週間を設け、2年次へのスムーズな学習移行をねらいます。 ⑤成績不振者対象とした補講を適宜実施します。 ⑥地域の教育ボランティア等による学習支援を強化します。
		リ	(4)新カリキュラムへの移行 ①厚労省の養成校指定規則変更(実習導入等)に対応するカリキュラム変更を適切に実施します。 ②新カリキュラムに適合する実習方法の確立、講義用設備等の整備、教材の準備等のインフラ整備を進めます。 ③2020年度入学生からのカリキュラム改正手続きを遂行します。 ④新旧カリキュラム遂行上の是正を行います。
		共	(5)自己点検報告書の作成 自己点検報告書を作成し、教育内容・水準の向上のためのPDCAを機能させます。
4	教育力向上	共	(1)教員評価制度導入の検討 ①教員を教育、研究、校務の各観点からバランスよく評価する制度を検討し、適材適所の領域分担システムの導入に繋がります。但し、両学部の教員役割が異なるため、十分な情報収集が必要となります。 ②研究業績だけでなく教育業績記録(ティーチングポートフォリオ)を導入します。
		共	(2)FD・SD活動の充実 ①前後期に「授業評価アンケート」を実施し、授業内容を継続的に改善します。 ②毎年度末、学部長と専攻長を中心とし、非常勤講師を含む全教員の教育力の確認と助言を行い教育水準の改善と標準化を図ります。 ③最先端高等教育に詳しい外部講師を招いたFD・SD研修会の定期的開催や外部FD研修への積極的参加と情報共有化により、最先端の高等教育スキルを理解し、授業改善する風土を醸成します。
		共	(3)学習の質向上のためのツール導入の検討 事前事後学修、実習科目に対するルーブリック評価の活用、学修ポートフォリオ、学修カルテ、各種学生アンケートの有効活用、ICT活用、アクティブラーニ

No	施策種類		事業計画
			ングの高度化、GPAの活用、授業のナンバリングなどFD委員会が優先順位を付け導入を推進します。
5	学生の学修モチベーション向上	共	(1)学生との意見交換の活用 ①学生(代表)の生の意見を多様性の観点から評価し、大学運営のPDCAに反映させます。 ②学生に大学運営への参加意識を高めることで「My University」を意識させ満足度を高めます。
		共	(2)学修成果(成長の軌跡)の見える化 ①卒業生が、「本学で得たこと」、「やり残したこと」、「後輩へのアドバイス」等を記録として残し、本学で学んだことが「将来への自信・プライド」となるよう導きます。 ②卒業生が出身高校を訪問する機会があれば、本学で得た価値を先生や後輩に積極的に伝えてもらい、自信を深めてもらいます。
		共	(3)在学生と卒業生の定期的交流 卒業生からプロとしての心構え・覚悟を伝授してもらい、在学生の日々の学修のモチベーション向上に寄与させます。
		共	(4)学業向上支援 ①新入学生・保護者向けに「入学時の不安・ストレス等に関するアンケート」(ICPと協力)や個別指導を行い、学生生活不適合や成績不振による退学を防止します。 ②「学生満足度調査」実施と結果および対応策を学生に開示します。 ③保護者との教育懇談会を実施します。
6	研究活動の活性化	共	(1)健康科学研究所と研究支援資金の活用 各教員が、健康科学研究所と研究支援資金を活用し、研究成果を学会や主要雑誌に積極的に発表し、自身の研究業績の蓄積だけでなく、研究機関としての本学レピュテーション(評価)の向上・高等教育機関としてのブランド力向上につなげます。
		共	(2)研究機器の更新 経年劣化や技術革新による更新時期を迎えている研究機器の更新および新カリキュラム対応の設備投資を、科研費間接費やその他補助金等を活用して推進します。
7	教育・研究基盤の整備	共	(1)学内教育環境の整備 ①アクティブラーニングやグループ学習に寄与するラーニングcommons環境を整備します。 ②北条・学園町図書館の連携を高め、図書館利便性向上を図ります。 ③「学生の声ボックス」等を通して、学生からの意見・要望を学内教育環境の整備に活用します。

No	施策種類		事業計画
		共	(2)補助金による学修環境の整備 私立大学等改革総合支援事業「タイプ1」等で本学が採択されるよう環境整備 します。
		看	(3)実習施設の開拓 新規の臨地実習施設を開拓します。
8	社会貢献・文化活動 推進	共	(1)地域住民との接点 ①地域住民の関心高い地域包括ケアシステム、高齢者医療、生活慣習病等 をテーマとする公開講座を両学部で共同開催します(年1回)。
		リ	②スポーツ相談室を核としたスポーツ関連の地域貢献を新たに検討します。
		看	③大阪府社会福祉事業団地域公益事業いっぶくステーションよらかでの「暇学 ラポール(なわらぼ)」を実施します。(1回/月の健康教室担当)
		リ	(2)行政との連携 ①四條畷市と「なわてふれあい商工祭り」他へ積極的に参加します。 ②大東市と「北条まちづくりプロジェクト」や「スマイルミネーション事業」他に参加し ます。
		共	(3)地域の企業との連携 地元企業が推進する「介助犬のひろばin 大東」や「ユニバーサルマップ作成」 等に積極的に参加します。
		共	(4)府下大学と連携 大学コンソーシアム活動に貢献します。
		共	(5)施設の開放 他機関から要請があれば会場として積極的に提供します。
9	進路支援・就職支 援・卒業生支援	共	(1)国試対策及び就職支援の強化 ①国試合格者数増加と合格率100%を達成するため、国家試験対策講座の一 層の充実やWebアプリ等のツール導入を検討します。
		共	②国試を再受験する卒業生を特別聴講生としてサポートし、確実な合格に導き ます。
		共	③1、2年生を対象に就職セミナー等を開催し、社会人に必要なコミュニケーショ ン、問題発見・解決、自ら学び続ける能力を高めます。
		共	④「キャリア支援室」との連携による就職対策を強化します。
		共	⑤就職活動に関する情報のデータベース化を図ります。
		看	⑥進学相談を充実させます(保健師、助産師、大学院進学)。
		共	(2)卒業生支援の強化 ①卒業生の交流・情報交換・スキル向上のための活動を強化します。 ②卒業生向け「学術講演会」や大学独自のホームカミング日の開催を定例化 し、卒業生組織を継続的に強化します。

No	施策種類		事業計画
10	学生等募集対策	共	<p>(1)競合校をさらに意識し、量と質を拡大</p> <p>①大学案内、HP、DMで、各専攻の教育内容の特色や傑出した研究、卒業生紹介等をアピールし、競合校との教育研究内容の差別化を図ります。</p> <p>②学力の高い層にアプローチし競合校との併願関係を強化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療系冊子に参画し、医療系大学との併願関係を強化(新)</li> <li>・業者のWebデータを活用し、競合校志望者へ情報発信(継)</li> <li>・業者データを活用したDMを増やし、一般入試受験者を獲得(継)</li> <li>・Web媒体や広告の競合校検索に対するリスティング広告を強化(継)</li> </ul> <p>③PT志望者との接触機会を増やすため、クラブの試合会場でのガイダンスに新たに参加します。</p> <p>④京都・兵庫北部、さらには沖縄等を含めた遠隔地エリアの高校訪問・ガイダンス参加を強化します。</p>
		共	<p>(2)ストーリー性のあるオープンキャンパスの実施</p> <p>①資料請求者に対し、DM発送により「本学特徴の刷り込み」と「イベント情報発信」します～OCにストーリー性を持たせ、リピーターを増加させます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各OCで異なるテーマの模擬授業等を行い、学部の特徴を理解させリピーターを増します。</li> <li>・授業公開型OC(WCV)で在学生と一緒に授業を受講し、大学生活をイメージさせます。</li> <li>・入試対策講座や相談会で受験勉強のコツを教え、また個別相談で疑問や不安を解消させます。</li> </ul>
		共	<p>(3)HPの充実</p> <p>①本学HPに週1件以上のニュース掲載を継続し、閲覧頻度が高まるように誘導します。</p> <p>②HPの維持管理体制を強化し、情報公開ツールとして常時アップデートし、アクセスログを解析し、マーケティングに活用します。</p>
		共	<p>(4)高校訪問の強化</p> <p>①重点高校に効果的な高校訪問ができるようルーションを構築します。</p> <p>②訪問先高校出身者の情報提供等により面談内容を充実させます。</p> <p>③高校生がリハビリテーションに興味を持つ話題を提供します。</p> <p>(例)PT…部活動時のケガのリハビリ、OT…カリキュラムをイメージしやすい 福祉系専門学科訪問</p> <p>④動物系、福祉系専門学校にも広報へ出向きます (卒後の進路としての進学を選択(国家資格取得))</p> <p>⑤保護者や塾への効果的アプローチ方法(時期、チャネル等)を検討します。</p> <p>⑥訪問マニュアル定期的見直しや訪問先情報の共有化等により、継続的なノウハウ</p>



No	施策種類		事業計画
			<p>ウの向上を図ります。</p> <p>⑦大学見学会等の受入れを強化します</p>
		リ	<p>(5)作業療法のイメージアップ</p> <p>①「身体機能」、「脳科学」、「精神」と密接に関連する作業療法のサイエンス的側面をクローズアップします。</p> <p>②動物介在療法や音楽セラピーがどのように脳に刺激を与え、脳機能回復に貢献します。</p> <p>③発達障がい児の摂食障害に対する取り組みや研究成果などをアピールし、作業療法は世間の関心を集める社会問題との関連がある重要な仕事であることを説明します。</p>
		共	<p>(6)高大連携の強化</p> <p>学園中学・高校との高大連携(学校説明、模擬授業等)を強化し、内部進学数の増加を図ります。</p>
11	災害対策等への取組	共	<p>(1)コンプライアンス管理体制の整備</p> <p>教職員が研究不正に関するe-Learning を定期的に受講し認識を新たにするなど、継続的にコンプライアンス教育を実施します。</p>
		共	<p>(2)リスク管理体制の強化</p> <p>業務ミスやトラブルに係るヒヤリ・ハット報告の励行により、問題事象のリスクの所在や防止方法を共有し、リスク管理体制を強化します。</p>
		共	<p>(3)危機管理体制の強化</p> <p>①防災訓練(含むAED訓練)を継続実施し、必要に応じて「本学防災マニュアル」を改定します。</p> <p>②本学は受動喫煙防止のため「全面禁煙宣言」しており、禁煙セミナーによる啓発等で禁煙を徹底します。</p> <p>③防犯キャンパスネットワーク大阪(大阪府警)の定期研修会に参加し警察署と連携を強化します。</p>
12	その他	共	<p>(1)事務の効率化</p> <p>①従来の事務フローをゼロベースで見直し、効率化を図ります。</p> <p>②大学両学部および短大事務室の共通事務を統合し効率化を図ります。</p> <p>③属人的な業務分担を排除し、全ての業務を複数の事務員が担当できる体制構築を推進します。</p>
		共	<p>(2)SD活動の推進</p> <p>職員が外部のSD啓発研修会等に積極的に参加し、ヒアリングした最新情報を教職員間で共有し、事務プロセスの改善につなげます。</p>

## 短期大学

No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	<p>(1) 募集活動の強化 重点エリア・指定校への効果的な活動により、募集定員180名(保育100名、ライフ80名)の入学者を安定的に確保します。</p> <p>(2) 教育の質の向上 ① 保育学科 平成31年度新カリキュラムのスタートにあたり、授業内容の充実を図り、教育の質の向上に努めます。 ② ライフデザイン総合学科 平成30年度スタートした新カリキュラムの定着に向けた取組のもと、学ぶ喜びを体感させ、より早い段階から進路活動のサポートを行う等、教育の質の向上に努めます。</p> <p>(3) 学生支援 学生の学びの状況等把握に努め、親身な生活・学習面のサポート、保護者との密な連携等により、休学・退学可能性のある学生に対し丁寧な対応に努めます。</p> <p>(4) 事務品質の向上 事務部門は、コンプライアンス遵守を土台とし、多能化や業務の効率化を進めるとともに、リスク管理を強化します。</p>
2	教育内容・水準の充実	<p>(1) 共通 ① 「課題発見・対応能力」を高めるため、アクティブラーニング等の教育ツールを積極的な活用やコミュニケーション能力の向上に努めます。また、必要な教養・知識を備え、主体的行動ができる人材を育成します。 ② 学生の満足度が高く、質の高い教育を提供します。 ア. 新入生全員に「入学に至る意識調査」を実施し、学習意欲や短期大学への期待を把握し、入学直後の指導を行います。 イ. 到達目標達成評価表(ルーブリック評価法)の導入により、運用や評価方法等、評価者の理解力を確認するとともにカリキュラムの改善について検討します。 ウ. 「授業評価アンケート」の実施、結果を踏まえたPDCA機能の強化を図り、「授業の質の向上」を図ります。 ③ 「文科省ガイドライン」に沿った短期大学における3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を点検し、充実に努めます。</p>

No	施策種類	事業計画
		<p>(2)保育学科</p> <p>①ピアノ等のマンツーマン指導による「音楽教育」、幼児を魅了する感性を磨く「美術教育」等の魅力ある教育を目指し、競合他校との差別化を図ります。</p> <p>②「指定園」の見直し、取組み強化を検討します。実習先との意見・情報交換の機会を増やし、事前・事後学習の内容を改善に努め、実習内容の一層の充実を図ります。</p> <p>(3)ライフデザイン総合学科</p> <p>現実社会に対応し生き抜く力を育成します。</p> <p>社会や学生のニーズを的確にとらえ、授業内容を工夫し、各学生が「自分の適性」に気づく教育を行います。また、各スキルと就職先・キャリアパスの関連を具体的に例示し、主体的にライフデザイン(人生設計)を描く能力を高めます。</p>
3	教育・研究環境の充実	<p>(1)「なわてドリル(eラーニング)」の内容見直しにより、基礎学力の向上に努める。基礎学力とSPI能力の連動性や対象科目の変更等を検討します。</p> <p>(2)ICTの活用の1つとして「eBook」による図書館の充実、24時間化を推進します。</p> <p>(3)科研費取得目標を300万円とします。</p>
4	教育・研究基盤の整備	<p>(1)教育提携の在り方について、社会情勢や学生ニーズを踏まえ、学びやすい環境について検討します。</p> <p>(2)教育に関する最新情報の提供や職場での悩みに対する助言を通して、地域と協働の研究基盤の整備、検討に努めます。</p> <p>・大東市との連携強化、施策などの見える化に努める。</p>
5	社会貢献・文化活動の推進	<p>(1)地域住民および企業のニーズ等実態把握に努め、求められる「社会人教育」について検討し、地域に貢献します。</p> <p>①社会人リフレッシュ講座の新規講座の開講に向けて地域ニーズの吸収に努め、参加者の増強を目指します。</p> <p>②幼稚園免許取得者の社会人を対象とする「保育士特例講座」(夏季集中)を募集します。</p> <p>(2)「音楽の四條畷短大」の文化・伝統を地域住民と分かち合う施策について引き続き検討します。</p> <p>(3)地域・大学と連携し、各種ボランティア活動を通して地域との接点を強化します。</p> <p>(4)教育に関する最新情報の提供や職場での悩みに対する助言を行う等、地域に貢献します。</p> <p>・大東市・四條畷市の各種委員会への教員派遣</p> <p>・地域の幼稚園・保育所等に出向き、情報交換</p> <p>・大東市社会福祉協議会運営の「生活サポート事業」への参加</p>

No	施策種類	事業計画
6	内部進学	(1)学園高校向け説明会等で、学びと将来の就職先が具体的にイメージできるよう模擬授業の内容や説明に工夫し、本学に対する理解を深めます。
		(2)高校・短大を通じて継続的に挨拶やマナー等の基本を教育する仕組み(情報交換、定期的な協議会)を構築し、「社会適応力」を高めます。
7	進路対策・就職対策	(1)各種業界等が主催する「就職フェア」等への積極的参加を促し、サポートに努めます。また、就職先の求人状況等実態把握に努め、新たな就職先の開拓に努めます。
		(2)大学編入希望者の個別相談に応じ、的確な支援を行い、「大学編入」の実績を上げ、就職以外の選択肢をアピールします。
		(3)卒業生のネットワークを活用した懇談会等による卒業生と学生相互間の交流の機会を増やし、学生の就職意欲の高まりや就職先の開拓に繋がります。また、学生の就職活動に係る保護者説明会を開催します。
		(4)「公務員対策講座」の実施方法・内容を工夫し、参加者・出席率を向上させ、公務員 志望・適性のある学生を支援します。
8	学生募集	(1)重点エリアならびに重点指定高校へのきめ細やかなアプローチのもと、出前授業等への対応強化を図る等、効果的な募集活動を行うことで、オープンキャンパスへの参加者増強に努めます。
		(2)学校案内、短期大学ホームページ、各種媒体の発信力(わかりやすさ・見やすさ等)の強化、改善に努めます。
		(3)模擬授業や短大生の実体験紹介を増やす等、学生の顔が見えるオープンキャンパスに変革します。
9	災害対策への取組	「危機管理マニュアル」に基づき、防災訓練を実施する等の確かな災害対策、対応ができる体制の確立を目指します。
10	その他	(1)清風学舎と北条学舎の事務処理の見える化により、効率化を目指します。また、円滑な学生対応に向け、事務品質の維持・向上に努めます。さらに、外部研修会への積極的な参加により知識の向上、事務プロセスの改善に繋がります。
		(2)事務部門では、短大と大学の連携を密にし、共通化できる項目を検討する等、事務効率化を目指します。
		(3)業務ミスやトラブル、ヒヤリハットを迅速に報告、問題点や対応策を教職員が共有し、リスクに係る意識の強化、定着に努めます。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 建学の精神と教育理念に基づく学校経営計画及び教育計画の策定・実践	(1) 理念・方針にもとづく教育計画の再構築	4月に各学年・各校務分掌で、教育理念・教育方針を踏まえた指導目標・教育活動計画を策定し、その目標の実現に努めます。	4月の学年や分掌の目標や計画の重要性から自己評価点を4.0以上とします。
	(2) 教職員の資質向上と学校運営体制を改善・整備	① 教職員資質向上のため新学習指導要領や新しい大学入試制度等教育課題にかかわる教職員研修の充実を図ります。 ② 会議・委員会では、教育課題や指導問題についてよく話し合い有効な実践につなげます。 ③ より良い教育実践のために、教員間のコミュニケーションや連携を図ります。	① 自己評価点を4.0とします。 ② 自己評価点を3.8とします。 ③ 既に実践している先生方の事例を参考にし、多くの教員による実践をめざし、自己評価点を3.8とします。
2 高校生に求められる学力及び態度・諸能力の基盤の養成	(1) 主体的・対話的で深い学び(AL授業)の実践	① ア. 基本的な知識・技能の習得のために分かりやすい授業改善に取り組み、内部での授業公開を定例化します。 イ. 思考力・判断力・表現力の養成のための授業改善を行います。 ウ. 課題解決能力を養うための主体的・協働的な授業を実践します。	① 自己評価点を4.0とします。 ② 自己評価点を3.8とします。 ③ 既に実践している先生方の事例を参考にし、多くの教員による実践をめざし、自己評価点を3.8とします。
	(2) 集団・社会に貢献できる態度・実行力	① 基本的な生活習慣・態度・マナーを身につけるための指導をしっかりと行います。 ② クラス活動や行事活動を通して協働や責任感などの社会性を身につける指導を行います。	① 自己評価点4.1を目指します。 ② 自己評価点を4.0とします。
	(3) 部活動を通して心身の鍛錬	① 短い活動時間で集中し、技術や精神力など自らの心身を主体的に鍛える指導を実践します。 ② 協調性や行動力など社会性を身につけるようチームワークを重視した指導を行います。	① 自己評価点4.1を目指します。 ② 自己評価点を4.0とします
	(4) 市民性を育む教育	18歳の選挙権を見すえ市民性・主権者意識を育む教育を実践します。	自己評価点を3.5とします。
	(5) 国際的資質を育む教育	海外からの研修生・留学生を受入れ、また、本校から研修生・留学生を派遣し、これからの社会で必要な国際感覚を育てる。	自己評価点を4.4とします。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
3人としての在り方・生き方を考え、他者と共により良く生きていくための人権意識	(1)自己・他者が共により良く生きようとする態度	①学年別にテーマを決め、多様な人権問題への適切な理解と態度を身につける学習を実施します。 ②学級生活や活動を通して仲間と共に調和して生活しようとする態度を養います。 ③年3回のいじめアンケートの実施等、普段から生徒の日々様子をしっかりと観察します。	①自己評価点を4.0とします。 ②自己評価点を3.9とします。
	(2)一人ひとりのニーズに応じた指導	①様々な課題を抱える生徒一人ひとりをしっかり理解し、丁寧に対応し支援を行います。 ②生徒のニーズを把握し教職員が連携しチームとして特別支援教育を実施します。	①自己評価点を4.1とします。 ②自己評価点を3.7とします。
4進路目標の実現に向けて、未来を切り拓くキャリア教育・進路指導	(1)未来の目標を実現する能力	①自分の興味・関心を知り進路目標を考える学習を行います。 ②職業に対する関心・意欲を高める体験的学習を実施します。	①自己評価点を3.9とします。 ②自己評価点を4.0とします。
	(2)生徒の目標を実現させる進路相談・支援	①進学や就職にかかわる進路情報を提供し、相談・助言を行います。 ②生徒のニーズに対応した放課後・休業中の講習を実施します。	①自己評価点を4.2とします。 ②自己評価点を4.0とします。
5安心・安全な社会を築くための態度と行動力の養成	防災・減災に向けた防災教育・訓練を実施	①マニュアルに沿った避難訓練、大阪880万人訓練等地震・津波・火災等、防災・減災に向けた訓練を実施します。 ②自然災害に対する科学的理解を深め、防災意識を高める学習を実施します。 ③「危機管理マニュアル」の検討を行います。	①自己評価点を4.3とします。 ②自己評価点を4.0とします。
6内部進学強化	(1)中高連携強化 ①中高連絡会議の充実 ②内部進学増加のための具体的方策の実施	①会議の内容充実と教育内容の情報提供 ②学園中学生対象OCで高校生活のプレゼンテーションの機会を設ける。進路懇談会時、中学校舎に内部進学相談ブース(高校教員が対応)の設置。	

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
	③高校の魅力ある教育の新たな実施の検討	③発展キャリアコースのAL授業公開。	
	(2)高短連携の強化 ①高短連絡会議の充実 ③説明会・体験授業等の新たな方策の実施 ④進学増加の高校進路指導における新たな方策の実施	①高短合同会議、高短連絡会、保育コースと保育学科の連絡会議を充実します。 ②模擬授業に代わる試みで就職と編入学の状況説明会を実施します。 ③ここ数年内部進学者数は一定数確保できているので、先輩方の活躍をしっかり紹介します。	
	(3)高大連携の強化 ①高大連絡会議の充実 ②リハビリ・看護進学増加の説明会・体験授業等の新たな方策の実施 ③リハビリ・看護進学増加の高校進路指導における新たな方策の実施	①高大連絡会議を充実します。 ②志願者増加に向けた魅力ある説明会・体験授業等を実施します。 ③リハの内部進学事前相談会は、とても内部進学への太いパイプとなっています。発展コースの探究活動の一環として、内部大学体験授業を企画しています。授業後は、レポート作成とプレゼンテーションの学習発表を行い、内部進学への理解を深めます。	
7生徒募集対策の強化	(1)募集・広報体制の整備	① 人員・組織の整備・・・業務委託の専従者2名の設置で、募集体制が充実。また、学園募集の方を活用し、一般企業の広報担当との意見交流等により募集の意識改革や発想の転換を図ります。 ② 活動計画の立案、実施・・・公立中学校への出前授業や高校選びの講演を積極的に打ち出します。また、寝屋川市立第十中学校のように高校訪問を募集し、積極的に広報します。中学校訪問や塾訪問の徹底したマニュアル作成と研修を実施します。 ③ 活動予算の立案と効果的な実施・・・OCを手伝ってくれた生徒の内部進学に特典を検討します。	
	(2)募集・広報戦略の改善	① 募集の方法・手段・時期の効果的な設定・・・新聞広告は止め、スマホなどデジタル媒体へ移行します。	

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
7生徒募集対策の強化	(2)募集・広報戦略の改善	<p>② 活動対象に応じた戦略の立案、実施・・・学園動画閲覧サイトを開設し、クラブ活動や学校行事等の生徒目線動画を募集し、アップします。</p> <p>③ 活動内容・プログラム・PRポイント・提供情報の工夫・・・各クラブのHPの充実を図る。またはクラブのFaceBookやInstagram作成を許可し、日々の活動や戦績などを積極的に発信します。</p>	
	(3)教育の特色の明確化	<p>教育の特色の明確化</p> <p>① 各コースの特色強化と実績の向上・・・総合キャリアコースは「サービス接遇検定」、保育コースは「保育検定」合格率の向上対策を検討します。</p> <p>② 教育活動の充実と生徒の成長成果・・・アクティブ・ラーニングを推進し、月1回以上の実践を進めます。</p> <p>③ 教育理念に即した人を育てる教育の実践・・・「実行から学べ」をテーマに生徒が参加して楽しめる企画を検討します。</p>	



中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 建学の精神・教育理念・教育方針に基づいて教育の実践を行い、私学としての独自性を発揮する	(1)私学の独自性	①職員研修などを通じて、建学の精神・教育理念などを理解・実践します。 ②入学式・卒業式・全体集会などを通じて、建学の精神・教育理念について生徒に話し、理解を深めます。 ③教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に沿って、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図ります。	①私学であるため教員による建学の精神及び教育理念の理解及び実践が4.2とします。 イ. 諸式を通じて校長講話の中で建学の精神や教育理念等の内容をわかりやすく説明します。 (2018年度4.2) ウ. 生徒指導部の月間目標に教育方針の内容を取り入れ、生徒に啓発を行います。
	(2)生徒のニーズに対応したコース制	①授業評価を検証し、改善点を見出し、生徒にとってより良い指導を行います。 ②英数コースは、勉強はもとより部活動もしっかり取り組めるコース。心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図ります。 ③英数発展コースは、夏期講習などで応用的な内容まで掘り下げた授業を展開し、何事も深く追求したいというニーズに応えます。 ④6年一貫コースは、総合的な学習の一貫である「自分プロジェクト」で自分の夢・目標を実現させる力を備え、これからの社会で活躍できる人材を育成します。	①それぞれのコースの特徴を理解し、コースの取組に満足しているかの設問に対し、教員の評価は3.9 ②(2018年度 生徒4.0 保護者3.9) ③(2018年度 生徒4.1 保護者4.5) ④(2018年度 生徒3.9 保護者4.0) 全コースの平均 2018年度 4.1。
	(3)進路指導	①生徒が、より良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するため、3年時2回の進路ガイダンスを行います。 ②個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、3年の1学期より希望調査をとり、進路相談や進路支援を行います。	①生徒の将来を見据え、進路情報の提供や進路ガイダンスを行います。(2018年度4.5) ③個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行っています。 2018年度は4.3と0.5ポイント上昇し、目標値をクリアしました。
2学習面において時代の変化に対応した、きめ細かい指導を行い確かな学力を	(1)教科指導	①各教科はシラバスに沿って指導するが、グループ学習を取り入れ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組みます。	①教員によるシラバスに沿った指導は高評価であるが、グループ学習及びALの取り入れについては進行中なので、まだ評価が低いです。目標を4.0以上にします。(2018年度4.0)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
育成するとともに、人権を尊重する学校づくりを行う		<p>②授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業を行います。</p> <p>③学力の向上をめざすため、早朝テスト・放課後学習・休暇中の講習を実施します。</p>	<p>②教員による授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業の展開の目標値を4.5 にします。(2018年度 4.1)生徒・保護者による授業の分かりやすさ(2018年度 生徒4.0 保護者3.8)との開きが大きいです。生徒保護者の目標値を4.2以上に設定します。</p> <p>③教員による生徒の学力向上・学習の遅れている生徒への支援を個々の生徒の実態に合わせて行なっているかの問いに対し(2018年度3.7)と評価が低く、努力が必要です。また、生徒・保護者による学校の学力向上への努力の数値は(2018年度 生徒4.1 保護者4.0)となっています。</p> <p>生徒・保護者による生徒の学力向上への意欲が低く(2018年度 生徒3.8 保護者3.6)4.0 を目標とします。</p>
	(2)人権教育	<p>①「心のバリアフリー」の観点から、障害者理解を深めつつ、人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して人権教育を行います。</p> <p>②いじめ等を防ぐため各学年、日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりアンケート」を実施し、人権意識を育てます。</p> <p>③障がい者と外国人差別について(1年)、身分差別と平和学習(2年)、総まとめと進路について(3年)と学年毎にテーマを決め人権教育を行います。</p> <p>④12月の人権週間には中学校行事として、人権講演を実施します。</p>	<p>①教員は周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践しており(2018年度4.3)と高評価です。</p> <p>②生徒・保護者による教員の「いじめ」の対応は適切か(2018年度 生徒3.7 保護者3.8)と低い、目標は4.0以上と設定します。</p> <p>③教員は人権に係わる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践している。この項目については4.5以上を目指します。(2018年度4.1)</p> <p>④人権講演や道徳的な行事につい</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
			ては(2018年度 生徒4.2 保護者4.0) 保護者の満足度も上昇し、現在の人権教育を進めます。
3基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事や部活動を通じて豊かな人格形成を行う。	(1)生活指導	①個別の問題行動の対応にとどまることなく、基本的な生活習慣と規律ある態度を養う指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせます。 ②重点を置いた指導として、生徒指導部が中心となり、挨拶運動・シェアザシート運動を実施します。	①教員による、規則を守らせる指導・挨拶・礼儀を重んじる目標は4.5以上(2018年度4.4)でありましたが、生徒・保護者による教員の規則を守らせる指導(2018年度 生徒4.3 保護者4.1)も少しずつ上昇しています。 ②(2018年度 生徒3.7 保護者3.9)と昨年と同ポイントだが評価は低いです。 生徒会を中心に積極的に挨拶運動を行い、風紀委員のおはよう会などと学校月間目標により、さらに啓発を行います。
	(2)危機管理と情報公開	①教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識を持ち、危機管理マニュアルを作成し、安全・安心な学校をめざす。また、災害に備えて備蓄品を整えます。 ②情報モラル講演会などにより、スマートフォンなどの情報機器の正しい使用法を習得させます。 ③学校ホームページの公開掲示板等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行います。	①安心・安全な学校を目指すには、危機管理マニュアルの整備(2018年度4.1)、緊急時の警察、消防との連携・訓練等の学校安全対策(2018年度4.0)はどちらも良い評価ですが4.5以上を目指します。 ③情報公開については、ようやく満足度が4.0に到達しました。(2018年度 生徒4.0 保護者4.0) 今後4.2以上を目指します。
	(3)学校行事や部活動	①社会性や協調性の育成のため、クラブ活動を奨励します。 ②情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒オリエンテーリングなど多彩な行事を充実させます。	①説明会やガイダンスなどで、クラブ活動の参加を奨励します。(2018年度 生徒4.1 保護者3.9) ②多彩な行事の中で、協調性を持ちながら主体的に行動できる生徒を育てます。(2018年度 生徒4.3 保護者4.3)
	(4)課題を抱えている生徒への支援	①生徒が抱えている問題に対して、きめ細かい相談・指導を行います。	①日頃、担任は日直面談等きめ細かい相談・支援を行なっています。(2018年度4.1)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		②問題解決の部署としてICP(臨床心理研究所)の存在の明確化をするとともに、相談しやすい環境づくりに努めます。	②生徒の個人面談等の満足度は低いです。(2018年度 生徒3.7)両方とも4.0以上を目指します。
4 保護者・同窓会・後援会との連携と社会貢献	保護者・同窓会・後援会との連携をすすめるとともに、地域の社会活動に協力します。	①保護者と協力しPTA活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会との連携し、文化祭・体育会などの活動を支援します。 ②復興支援やボランティア活動等で地域に協力します。	①保護者から見るPTA 活動は(2018年度 保護者3.9)目標値まで、あと少しであり、PTA 活動を支援します。 ②生徒から見る生徒会活動は(2018年度 生徒4.3)と目標値4.0を超えました。
5 生徒募集対策	児童人口減少の中、私学としての特徴を活かし、募集定員を充足させます。	①小学校・中学校・高等学校の連携充実に努め、安定した内部進学数を確保します。 ②外部入試説明会を充実させ、より多くの受験者を確保します。 35名×5 クラスで学年募集定員175名 学則定員200名を目標とします。	学園小学校からの内部進学者70%以上を目標とします。 内部高校への進学者50名以上を目標とします。 本学の教育の特長を説明する等ホームページを充実させます。また、Facebook による情報発信を一層充実させます。 第4回説明会参加者数350名以上 外部入学者数130名を目指し。

【学校全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 選び抜いた内容の実践と改良	(1)「指導要領プラス」をスローガンとしたカリキュラム・教材／教具を模索、実践しその効果を検証します。	①校内研究授業を計画実践し、今後の研究の深化に役立てます。 ②指導要領にプラスした独自性のある学習プログラム開発します。	指導力向上に関する教員自己評価を4.3以上にします。(2018年度4.3)
	(2)1～6年生の英語カリキュラムと教材を開発します。	①現在1,2年生に行われてきた英語教材を精選し、1年生用に再編します。 ②現在まで行われてきた3～6年生のカリキュラムと教材を精選し、2～4年生用に再編します。 ③5・6年生の英語が教科になることに伴い、新たな教材や教授法を研究、開発します。各児童に英語学習機材をもたせ(シャープ英語辞書に入っているアプリ・ブレーン)、個別学習を実施します。 ④複数教員による英語科研究体制を構築します。 ⑤1～6年生まで通したモジュール学習の教材の指導法を検討します。	
	(3)プログラミング教育の教材を開発、研究します。	ICT研を軸とした研究組織を作り、現行の学習にプログラミングを加味した教材を開発し、実践します。	
	(4)道徳教材を精選、実践します。	道徳科研究部を中心に、教材を吟味、精選し、評価を含めたカリキュラムの整備を行います。	
2 学校行事の見直しと改良	(1)全校行事を改良します。	保護者や児童の意見をもとに、体育会や秋まつり、音楽会などに改良を加えます。	保護者、児童アンケートのうち、「行事は楽しく充実している」の評価を向上します。
	(2) 宿泊行事を見直します。	修学旅行の行き先と行程を再考します。 カントリーステイの内容の拡充を検討します。春は従来通りの田植え、秋には日帰り遠足で稲刈りを検討します。	
3 基本的な生活習慣の育成	(1)児童の自主性・主体性がより発揮できるよう、児童委員会・係活動・縦割り活	①縦割り活動や児童会を通じて、児童自身が校内のマナー向上策を考えられるように活動形態を整備し、活性化を図ります。	主体性に関する教員自己評価を4.3以上にします。(2018年度4.3)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
	動、行事の内容を再検討します。	②児童会活動のシステムを、さらによきものになるように検討を加えます。特に児童会主催のボランティア活動を奨励します。 ③「自律の手助け」を念頭に置き、各家庭及び学級に配布する「しつけポスター」を指針として家庭と学校が協力し、指導を行います。	保護者、児童アンケートのうち、「児童会活動や係活動がんばっている」の評価を向上します。
	(2)規律遵守の意識レベルの向上を図ります。	①特に言葉づかいと姿勢について、教員が範を示し児童が見倣うことのできる機会を積極的に増やします。 ②登下校のマナー向上のため、職員が交替で通学路に立ち、児童の直接指導に当たります。 ③職員が交代で毎土曜日に四条畷駅に行き、乗車マナーの指導に当たります。 ④校外行事の日、校内に訪問者が来る日を『マナー実践の場』と児童に意識させ、実際の場に応用する機会を作ります。 ⑤年度初めに各担任が「学校のきまり」を児童と保護者に説明し、理解と協力を求めます。 ⑥マナー、しつけについての学期目標を定め、児童と教員に周知しその徹底を図ります。	①マナー・モラルに関する教員自己評価を4.3以上にします。(2018年度4.3) ②保護者、児童アンケートのうちしつけに関する3項目の平均(4.0以上)を維持します。
4基礎学力の徹底	(1)国語の観点のうち、「書く能力」の向上を図ります。	①国語研究の組織を立ち上げ、研究の軸として機能するように時間と場所を確保します。 ②「書き、まとめる」「書いて考える」「書いて交流する」授業プランを開発、改良し、複数の教員が授業化することによりプランの質的向上を図ります。 ③「書くこと」を意識した授業を全カリキュラムに導入し、児童の書いたノート、WS類を校内研究会で研究の対象にします。 ④統一確認テスト等の学力テストで、基準とする値に達していない児童を抽出し、学級担任および学年補助教員が対象児童の学力向上に努めます。次年度の学力テストでその成果を再調査し、指導方法が有効であったかを検証します。	①学力向上に関する教員自己評価を4.4以上にします。(2018年度4.4) ②学力テストの、国語の観点別評価項目「書く能力」をすべての学年で前年度以上に引き上げます。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
	(2)国語の観点のうち、「聞く能力」の向上を図ります。	<p>①低学年では「読み聞かせ」を重視し、聞き取った内容や感想を発表し合う場を持ちます。</p> <p>②「読む・書く」の「繰り返し練習」により、「話の要旨を的確に把握して、その内容を理解できる」ための基礎となる知識、特に語彙力を増やします。</p> <p>③すべての教科で、聞き取ったことをメモしたり、ノートに取ったりする活動を増やします。</p> <p>④統一確認テスト等の学力テストで、基準とする値に達していない児童を抽出し、学級担任および学年補助教員が対象児童の学力向上に努めます。次年度の学力テストでその成果を再調査し、指導方法が有効であったかを検証します。</p> <p>⑤学力テスト対策委員会を立ち上げ、月1回基礎学力向上にむけた話し合いを持ち、合わせて模擬テストを実施します。</p>	学力テストの、国語の観点別評価項目「聞く能力」をすべての学年で前年度以上に引き上げます。
	(3)教員の指導力向上をはかります。	<p>①多様な指導形態による個に応じた指導法の開発に努めます。</p> <p>②学年主任を中核としたOJTを推進し、若手教員の授業力や児童理解力、学級経営力の育成の日常化を図ります。</p> <p>③学年内でお互いに授業を公開し合い、授業力向上と学年内での指導方法の統一を図ります。</p> <p>④研究授業を増やし、相互の実践を対比することで指導力の向上を図ります。</p> <p>⑤指導方法やアンガーマネジメント、保護者対応などの講習会を実施し、教員の資質向上を図ります。</p>	計画的な教員研修に関する教員自己評価を4.0以上にします。(2018年度3.9)

【人権・道徳】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
5主体的な生き方の尊重	一人ひとりの興味関心を大切に、だれにも自信を持たせる教育を行います。道徳教育、人権教育を軸に、互いの個性を尊重しあえる土壌をつくります。	<p>①道徳教育の充実を図ります。教科道徳への移行をふまえ、週1回の道徳を確実に実施するとともに、「考える道徳」「学びあう道徳」の実践を進めます。</p> <p>②人権教育の充実を図ります。体験型の講習会や社会見学、人権を意識した校外行事を実施し、人権意識の向上をはかります。</p> <p>③いじめ等を防ぐために、各学年アンケートを行い、人権意識を育てます。(学年はじめと宿泊行事の前に実施)</p> <p>④日記や作文などをもとに、子ども同士の人間関係を推し量り、よりよい学校生活を送ることができる環境を整えます。</p> <p>⑤「学習の記録」及び「指導要録」に記載する個人内評価を検討し、実施します。</p>	人権意識向上に関する教員自己評価を4.1以上にします。(2018年度4.1)

【施設・設備】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
6教育環境の充実	学校の美化に全校で取り組みます。	<p>①児童の自教室の美化意識を向上させることを、校内全体の美化意識向上につなげます。</p> <p>②児童に持ち物を自主的に整理整頓させ、担任は定期的に指導を行います。</p> <p>③児童会・美化委員会が企画立案する駅前清掃、校内清掃を実施します。</p> <p>④老朽化した設備や災害等によって破損した箇所を修理、改修し、校内の安全性と美化を向上します。</p>	<p>①美化に関する教職員の自己評価を4.0以上にします。(2018年度4.0)</p> <p>②保護者、児童アンケートのうち、「校内の施設、設備は充実している」の評価を向上します。</p>



【環境】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
7安心、安全な学校づくり	(1)児童の生命を守るために、対策をたて取り組みます。	①一般防災に関する対策 ア. 防災マニュアルに沿った避難訓練、マニュアルの検討を行います。 イ. マニュアルが機能するよう、避難通路や防災用具を定期的に点検します。 ウ. 緊急集団下校マニュアルに添い、円滑な保護者への引き渡しを目的とした訓練を行います。 エ. 緊急時の一斉配信システムを整備します。 オ. 宿泊を伴う校外行事では、最初に避難経路を児童に知らせ、必要に応じて避難訓練を行います。 ②不審者等の危機管理 ア. 不審者対策危機管理マニュアルにそって危機レベルごとの迅速な対応ができるよう、職員の訓練を行います。 イ. 不審者対策として、校内に防犯カメラを設置し、児童の安全確保をよりいっそう強化します。 ウ. 不審者対策危機管理マニュアルを作成し、児童に危害が及ぶ危険性を段階的に設定します。	「防災や安全に関する指導」の教員自己評価を4.1以上にします。(2018年度4.1)
	(2)児童の安全に対する意識を向上させるため、特別活動や道徳の時間を使って教育を行います。	①「自分のいのちは自分で守る」意識を徹底させ、教職員とともに臨機応変に避難できる子どもを育てます。 ②外部組織と連携し、安全意識向上のための教育を行います(四條畷警察による安全教室、NTTによる安全モラル教室、大阪府少年サポートセンターによる非行防止教室、大阪府警による非行防止教室等)。	
	(3)防災対策を強化します。	①火災、地震等の防災係を組織します。 ②防災マニュアルを作成し、マニュアルに沿った避難訓練を実施します。	

【児童募集】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
8内部連携を強化し募集活動を充実	幼稚園・中学校との連携を強化し募集活動を充実します。	<p>①幼稚園との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア. 連絡会・協議会などを通じ教師間の相互理解と交流を深めます。</li> <li>イ. 保護者対象の公開授業や説明会を実施します。</li> <li>ウ. 幼稚園の連携を強化し、内部進学数の増加に努めます。</li> <li>エ. 児童による園児との交流の場を設け、小学校の取り組みが園児に伝わる機会を増やします(本読み、もの作り、音楽交流)。</li> </ul> <p>②中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア. 連絡会・協議会などを通じ教師間の相互理解と交流を深めます。</li> <li>イ. 中学校の連携を強化し、内部進学数の増加に努めます。</li> <li>ウ. 内部進学の見学指導を強化します。</li> <li>エ. クラブ体験や授業体験を設け、中学の活動が小学生に分かる機会を増やします。(運動クラブ体験、文化クラブ体験、理科授業体験、中学出前授業)</li> </ul> <p>③募集活動を検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア. 児童募集活動の課題を抽出し、その対策を検討します。</li> <li>イ. 入学を検討している保護者に対する、校内外入試説明会・塾説明会・体験授業の方法を検討します。</li> <li>ウ. 広報媒介を検討します。</li> <li>エ. 私学展等の公開説明会での説明方法を改善します。</li> <li>オ. 外部幼稚園への広報活動を拡充し、希望する園で説明会を実施します。</li> </ul>	<p>2018年度は、幼稚園(年長121名)内部進学者39名(32%)でした。</p> <p>今年度は、124名の年長園児のうち、内部進学者50名以上(40%)を目標とします。</p> <p>2018年度は、中学内部進学者50名(52%)でした。</p> <p>今年度は、内部進学者70%以上を目標とします。</p> <p>2018年度は、入学者90名でした。</p> <p>募集定員90名は、充足しました。</p> <p>今年度も募集定員が充足するように努めます。</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1心身の健全な成長を促し、豊かな人格形成の基礎と感謝の心を培います。	(1)建学の精神「報恩感謝」を実践し、子ども達が持つ可能性を最大限に引き出す手段として、「YYプロジェクト(ヨコミネ式教育法)」を更に推進します。	①「心の力」…思いやりと優しさのある子どもに育てます。 ②「学ぶ力」…自ら考えて行動する子どもに育てます。 ③「体の力」…丈夫で健康な子どもに育てます。  ①②③をバランスよく育み、人間的に自立し、自分の力で夢を実現できるようにします。	1教職員自己評価「4.0」 ①思いやりと優しさのある子ども(心の力)を育成します。「4.0」 ア. 体操や学習、生活面で困っている子どもの力になることができるようにします。 イ. 生活面でも気が付いて進んで手伝いができるようにします。 ②自ら考えて行動する子ども(学ぶ力)を育成します。「4.0」 ア. 挨拶・衣服の着脱・うがい・手洗いなどを自ら進んでできるようにします。 イ. 次の活動で何をするのかを考え行動できるようにします。 ③丈夫で健康な子ども(体の力)を育成します。「4.0」 ア. かけっこやリレーで体力をつけるようにします。 イ. 基本の柔軟体操ができるようにします。 ウ. 保育全般に渡って、十分に体を動かすようにします。
	(2)感謝の気持ちを培い、表現できるようにします。	「ありがとう」の文集作りや勤労感謝の日には、働く人に感謝の品を渡し、また、常に感謝の気持ちを表現できるようにします。	文集作りや働く人に感謝の気持ちを持つ環境を作り、また、感謝の気持ちを表す機会を常に作り、「ありがとうございました。」と自然に口にできる環境を作ります。
2基本的な生活習慣の形成と規範意識を高め、社会のマナーを身に付けます。	(1)基本的な生活習慣の形成とルールを守ることやマナー意識を身に付けます。	挨拶の徹底、衣服の着脱の習慣、食べる喜びを感じるとともに、食育の意識向上、排泄の習慣を身に付けます。マナーの点で、人と接する時に「しなくてはならないこと」と「してはいけないこと」の判断力の修得に努めます。	2教職員自己評価「4.0」 集団生活を送る上で、基本的な生活習慣上大事なことを意識する力を培います。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
	(2)集団生活に必要な思考力、態度と行動を養います。	集団のルールを理解し、集団の中で自分の動きを意識する力と仲間への思いやりの気持ちを養います。	きまりの理解と集団の中の自分を考える力を養います。
3 安全・安心な教育環境を整え、子どもの積極的で活発な活動を促します。	(1)安心・安全な教育環境の整備に努めます。	①園全体の安全確保(セキュリティ)と保育室の環境整備に努めます。 ②戸外プール時の安全対策に努めます。 ③安全意識を高め、積極的に運動等ができるようにします。 ④登降園時の安全対策。けがの予防や感染予防に努めます。 ⑤防災・避難訓練・交通安全教育・防犯教室を実施します。	3教職員自己評価「4.0」 ①登降園での安全対策に努めるとともに、病気・けがの予防指導をします。 ②作成した「戸外プール安全管理マニュアル」を周知徹底します。 ③安全意識を高め、積極的に運動等ができるようにします。 ④災害が発生した時に安全に対応できる力を培います。 ⑤防災・避難訓練・交通安全教育・防犯教室を実施します。
	(2)子どもの積極的な活動力を培います。	①教材・遊具・用具を利用して、活発な行動を身に付けるようにします。 ②栽培や飼育を通して、命の大切さを考える機会を作ります。 ③遠足等の行事で視野を広げ、人との触れ合いの場を積極的に作ります。	①園内にある教材等を利用する意識を大切にして、積極的に活動できる力を培います。 ②栽培や飼育を通して、命の大切さを考える機会を作ります。 ③園外での機会を通して、視野を広げる力を培います
4 教育課程を通して積極的に取り組む行動や友達と助け合い協力する態度を身に付けます。	(1)教育環境の整備、充実を図ります。	①運動や遊びを通して、挑戦しようとする気持ちや技能を養います。 ②読む・書く・数えることに関心を持ち、主体的に考え、表現する力を養い、友達と一緒に喜んで活動に取り組み、努力や力を合わせることの大切さを学びます。	4教職員自己評価「4.0」 ①クラスの情報を学年として共有しながら、子ども達の積極的な動きやアクティブラーニングを視野に入れた保育に努めます。また、保育力向上のためにも、園内研修の充実を図ります。 ②発表会などの行事を通して、協力する大切さとやり遂げた喜びを味わえるような保育をします。
	(2)教職員の資質向上を図ります。	①週案を重視しながら、年間目標、中間報告等常にPDCAサイクルを回すようにします。 ②教職員同士の協力体制・連携を強化しながら、教育力の向上・教育内容の充実を図ります。	①各学年目標を明確化し、目標達成度をチェックします。 ②教職員の協力、連携を強化し、保育力、教育力を高め、教育内容の充実を図ります。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
5 子どもの個性・発達・特性に応じた指導を丁寧に行ないます。	(1)健康で活発な子ども、気がついて自然と優しくできる子どもに育てます	遊びや活動を通して、人と触れ合い、協力しながら、心身の調和の基礎を培います。	5 教職員自己評価「4.0」 園に行くことを楽しみにして、喜んで行事にも参加できるようにします。
	(2)個性の伸長を踏まえた指導支援を行ないます。	一人ひとりの子どもの個性・発達・特性に応じた指導を行ないます。	子ども個々の成長、発達、特性の違いを踏まえ、個性を尊重する指導支援を行ないます。
6 保護者・地域・小学校と連携した教育活動を実施します。	(1)保護者との連携を重視して行ないます。	保護者との密な連絡と連携を図り、豊かな教育活動に努めます。	6教職員自己評価「4.0」 ①保護者との信頼関係を築く努力を続け、常に連携を取ります。 ②保護者からの相談などに対して誠実に対応し連携を図ります。
	(2)地域の理解や協力を得ながら、連携して豊かな教育活動を実施します。	保護者・地域住民へ情報を提供し、教育活動の支援と奨励に努めます。	子育て相談・子育て談話会・見学会・園庭開放の普及を実施します。
	(3)幼小連携の交流会や研修に参加し、特に内部進学強化と推進を図ります。	①子どもの育ちについて、公立小学校との連携と充実に努めます。 ②内部進学強化と推進に努めます。	①保幼小合同研修会等に積極的に参加するようにします。 ②学園小学生との交流会を持ち、内部進学に関心が持てるようにします。
7 教職員の研修を推進し、幼稚園運営体制の充実を図ります。	(1)園外・園内研修会を促進し、また、充実させ教職員の資質向上を図ります。	研修会での情報の共有化を行ない、研鑽し、保育力を向上します。	7 教職員自己評価「4.0」 園内研修や園外の研修会に積極的に参加して、情報を共有して、保育力向上を図ります。
	(2)教職員の協力・連携を強化し、教育力の向上と教育内容の充実を図ります。	学年目標の明確化を実施するとともに、週案を重視して、その到達度を確認していきます。	学年目標を設定し、全員出来ることを視野に置き指導するとともに、常に到達度を確認するようにします。
8 幼稚園入園希望の保護者のニーズを研究し、受験者数増加につなげます。	(1)幼稚園を取り巻く現状を調査し、募集対策を強化します。	①2019年10月からの幼児教育無償化の対応を検討していきます。 ②園の情報をより早く伝えられるようにします。	8 教職員自己評価「4.0」 ①保育料の徴収回数を12回にして、月々の保護者負担の軽減につなげます。 ②園からの様々な行事の案内文書が続けるとともに、インターネットを媒体にした園紹介分野(Instagram)をこれからも続けます。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
	(1) 幼稚園を取り巻く現状を調査し、募集対策を強化します。	③ ホームページ閲覧につながる情報提供の仕方を検討していきます。	③ 園見学・説明会、入園募集説明会の参加者増につながるように、インターネットやポスター、チラシなど多くの媒体を使うようにします。  新入園児数(年少) H29年度94→H30年度106
	(2) 預かり保育を見直し、実施する期間や内容を検討します。	預かり保育の利便性を向上します。	預かり保育の手続きの仕方の検討をし改善します。また、保育内容も常に幼稚園側と打ち合わせをし、ニーズに合うようにします。
	(3) 満3歳児入園を実施します。	保護者ニーズに合わせた満3歳児入園を実施します。	プロジェクトチームを作り、準備が整い次第実施します。
	(4) 認定こども園への移行を検討します。	社会情勢を踏まえて、認定こども園への移行を検討します。	幼稚園型か幼保連携型かも含めて、近隣の現状を調査して移行に向けて検討します。

## 保育園

No	施策種類	事業計画
1	保育の質の確保・向上	(1)教職員の資質・専門性の向上 園外研修、園内研修の積極的・計画的な受講を通して保育教諭等の資質・専門性の向上に務めます。園内研修では外部講師を招いてヨコミネ式教育法の習得に努めます。
		(2)設定保育の充実 体操、造形表現、遊びを通じた学習、英語絵本の読み聞かせに加え、リトミックを正課に加えます。また、専門家による設定保育を教職員が共に行うことにより、教職員の保育スキルの向上に努めます。
		(3)絵本・紙芝居の充実 絵本、紙芝居の種類・冊数をより充実させ、読み聞かせを通して、感情豊かで、多くのことばを知っている子どもに育てます。
		(4)配置保育士数の充実 可能な限り基準以上の保育士を配置し、保育の質を確保するとともに、教職員の負担を軽減します。
		(5)保育用具の充実 こどもの発達に役立つ保育用具を充実させます。
		(6)学園幼稚園の行事への参加 学園幼稚園の行事に参加することにより、総合学園としての行事を体験します。
		(7)休憩対応保育士体制の強化 常時2名体制とし、教職員が休憩時間を確保できることにより、保育の質の向上を図ります。
		(8)マニュアルの整備 開園後1年間の経験・結果をマニュアルに反映し、品質の向上に務めます。
2	事故防止への取り組み	(1)ヒヤリハット検証と事故の防止・抑止 2018年度のヒヤリハットを検証して、類似事故の再発等を防止、抑止に務めます。また、大きな事故の防止に努めます。
		(2)食中毒防止の徹底 ハサップ HACCPによるプロセス管理を徹底し、食中毒発生の可能性を排除します。
3	働き方改革への取り組み	(1)デジタルシフトの推進 コドモン、LINE WORKS等の活用によりデジタルシフトを推進し、教職員の事務負担を軽減するとともに保護者の利便性にも配慮します。

No	施策種類	事業計画
		<p>(2)ペーパーレスの推進 必要なもの以外は紙での配付等を廃止し、事務負担を軽減するとともに保護者の利便性にも配慮します。(2018年度より強化します。)</p> <p>(3)チーム保育の推進 1歳児、2歳児のクラス分けをせず、チーム保育を採用し、持ち回りでリーダーを担当します。チーム保育により、複数の教職員の目で園児を見守り、子どもが自由に活動できる場を提供します。また、複数人で担当することにより教職員の心理的負担を軽減します。</p> <p>(4)作業の効率化の推進 保育事務の標準化、例文化によるマニュアル整備を通して、教職員の負担軽減を図ります。</p>
4	保護者満足度の向上	<p>1)WEB参観の実施 保育の様子をライブ配信し別室のモニターで見学できる「WEB参観」を定期的に開催します。教職員が同席し、保護者の反響、意見等を聴く機会としても活用します。</p> <p>(2)録画映像の提供 保育風景を録画し、YOU TUBEの限定公開機能により自宅等で見るができる機会を継続的に提供します。(公開期間は短期間に限定。URLを秘匿し検索できない設定。)</p> <p>(3)情報の共有化の推進 LINE WORKS、コドモンを通して、保護者の方と園とで必要な情報をタイムリーに共有します。</p>
5	社会貢献・文化活動の推進	<p>(1)地域枠の設定 地域枠の設定により、地域の待機児童、保留児童の解消に貢献します。</p>
6	園児募集	<p>(1)内部募集の強化 教職員、保護者等への継続的な広報等により学園関係者への認知度を向上させ、園児確保につなげます。</p> <p>(2)WEBサイト、SNSによる広報の充実 WEBサイトの充実、Twitter等のSNSのフォロワー数の増加により、園の認知度を向上させ、園児募集につなげます。</p> <p>(3)キャンセル待ちの確保 キャンセル待ちを常時確保し、途中で退園する園児がでもすぐに定員を補充できる体制をとります。</p>
7	内部進学	<p>(1)学園幼稚園への接続 学園幼稚園と同じヨコミネ式教育法を徹底し、幼稚園に入園しても継続的で連続性のある保育となることにより幼稚園入園につなげます。</p>



No	施策種類	事業計画
8	その他	(1)0歳児受入れの検討 2020年度より0歳児(6~8ヶ月程度)を受入れることを検討します。そのために必要な体制の準備、0歳児に対する保育知識の習得等に努めます。
		(2)経費管理の徹底 保育園は収入が定額のため、支出管理を一層徹底し、保育の質を確保しながら安定的に運営します。
		(3)収入の確保 園児の登園日数が16日未満の場合、運営費助成金がカットになることから、夏期の設定保育等の充実等により、園児の登園動機の確保に努めます。

## 主な新規事業計画

### 【法人本部】

No	事業名称	事業概要
1	ネットワークの帯域圧迫改善	WSUS(Windows Server Update Services)の導入。
2	ホームページのサーバ乗換えと 常時SSL化対応	スマイルサーバサービス停止対応等。
3	PC更改と新任教職員用PC購入	Windows7サポート停止等により更改を加速。
4	【高等学校】体育館 天井耐震工事	補助金事業。耐震天井に改修し、生徒の安全を確保する
5	【高等学校】体育館 LED工事	2020年水銀灯の供給がストップするため、変更を行なう。
6	【高等学校】体育館 渡り廊下架設	補助金事業。 バリアフリー化の一環として、車いすで体育館アリーナに行くことを可能にする。
7	【高等学校】総合ホール 舞台幕改修	経年劣化により生地がもろく、裂けている。
8	【高等学校】保健室改修	衛生面を鑑み、改修し清潔な場所づくりを行なう。
9	【高等学校】本館 教室後方ガラス 入れ替え	高校からの依頼(一部の窓を透明にし、カーテンを取り付ける。)
10	【高等学校】総合ホール 舞台照明 改修	経年劣化による照明度の低下のため。
11	【大学】看護学部 湧き水用ポンプ取 り替え	湧き水の成分(石灰)によるポンプの故障。(今後の対策工事含む)
12	【高等学校】第二飯盛嶺校舎 地下 水ポンプ改修	湧き水の成分によるポンプの故障。
13	【高等学校】飯盛嶺校舎 1階床改 修	経年劣化により、床材が割れ剥がれている。
14	【高等学校】総合ホール 3階床改修	経年劣化により、床材が割れ剥がれている。
15	【短期大学】清風学者 エレベーター 劣化部品取り替え	フジテックから数件の改修提案のうち、優先順位トップのもの
16	【中学校】本館との渡り廊下設置	中学校校舎と本館の間に渡り屋根の設置(消防に影響のない範囲)
17	【小学校】外壁洗浄	小学校校舎南タイル面の洗剤洗浄

【大学】リハビリテーション学部

No	事業名称	事業概要
1	ウェアラブル心拍センサー等の購入	MyBeat、アドバンスドビューアソフト。
2	標準型車椅子の購入	2020年度、養成校指定規則指定対応。
3	スパイロドック等の購入	2020年度、養成校指定規則指定対応。
4	入試用ノートPCの購入	Windows7サポート終了対応。

【大学】看護学部

該当無し

【短期大学】

No	事業名称	事業概要
1	北条第3PC教室 PC更改	Windows7サポート終了対応。20台入れ替え。
2	ローランド電子ピアノの購入	老朽化対応。

【高等学校】

No	事業名称	事業概要
1	Chromebookの新規購入	発展キャリアコースにて1クラス分整備。AL対応。40台導入。
2	WiFi環境の充実	発展キャリアコース対応およびeポートフォリオ対応。
3	吹奏楽部用楽器の購入	クラリネット チューバ 各1台。
4	書道下敷きの購入	劣化による買換え。
5	体育用マットの購入	劣化等による買換え。

【中学校】

No	事業名称	事業概要
1	生徒用iPadの購入	40台導入。新指導要領対応。
2	吹奏楽部 楽器の修理等	楽器の修理、譜面台の購入。
3	電動裁断機の購入	老朽化による買換え。

【小学校】

No	事業名称	事業概要
1	秋祭り用舞台アルミステージの購入	老朽化による買換え。
2	児童用英語授業用電子辞書の購入	新指導要領対応。
3	プログラミング教材KOOVの購入	ロボットプログラミング学習教材。新指導要領対応。
4	生徒用iPadの購入	11台導入。プログラミング教育用。新指導要領対応。

**【幼稚園】**

No	事業名称	事業概要
1	園児用椅子の購入	老朽化による買換え。100脚。
2	リヤカーの購入	運動会、体操発表会等で使用。

**【保育園】**

No	事業名称	事業概要
1	保育用具の購入	保育の質の確保・向上に必要な保育用具の購入。
2	絵本、紙芝居の購入	図鑑、絵本、紙芝居の作品を充実。
3	楽器の購入	リトミックで使用する楽器の購入。